

中学校 1年 特別活動（学級活動） 学習指導案

「著作権等の知的財産権を尊重する」

日 時：平成 年 月 日（ ）

場 所：

授業者： 教諭 奥田 恭隆

1 題材名

D 情報に関する技術（1）ウ 「著作権の保護と情報モラルについて考える」

教材：「情報伝達の安全性とマナーを考えよう」

新編新しい技術・家庭 技術分野（東京書籍 p 196・197）

2 題材について

（1）ねらいについて

情報社会の進展に伴い、コンピュータは情報発信の道具の一つとして生活の様々な場利用され、必要不可欠なものとなっている。したがって、これからの社会では、基本的なスキルの一つとしてコンピュータを活用できることが必要とされる。これまで、「情報とコンピュータ」における授業では、コンピュータの基本的な操作を扱ってきた。

本題材では、これまでに学習したことをもとにして、各自が作成した情報を相手に伝えていく際に生じる問題点について考えさせ、著作権や個人情報の保護、情報モラル遵守の重要性、並びに情報通信ネットワークに潜む畏の回避方法について理解させていくことをねらいとしている。

（2）生徒の実態について（男子〇〇人、女子〇〇人 計〇〇人）

事前アンケートによると、生徒はコンピュータを用いた授業が好きである（〇〇人）と答えている。その理由として、「楽しいから」「思い通りにいかないが、それを乗り越えた時に充実感がある。」「自分の思うように活用することができる」など、コンピュータに対して、強い興味・関心を抱いている。また、電子メールの使用に関しては、自分専用の携帯電話を所有している者もいる（〇〇人）。さらに、携帯電話やパソコンを使った電子メールのやり取りをしたことのある生徒はクラスの半数以上いる（携帯電話〇〇人、パソコン〇〇人）。このような実態の中で、携帯電話を使用していてトラブルに遭遇した者は少ない（〇〇人）。そのトラブルは、ともに架空請求の通知であった。

（3）指導にあたって

- 実生活での関連を図ることができるよう、身近な話題を取り上げる。
- 個人の能力の差を埋めるために、考えたアイデアを班で練り合う活動を取り入れる。
- 学んだことを実生活で生かせるように、校内ネットワーク利用時の注意点を指導し、疑似体験を行わせるようにする。

(4) 情報モラル教育の視点から

ア 本時は、「モデルカリキュラム」の目標「1. 情報社会の倫理」、項目「b 4-1：個人の権利を尊重する」「b 4-2：著作権などの知的財産権を尊重する」との関連を重視して展開する。また、目標「3. 安全への知恵」、項目「e 4-2：自他の情報の安全な取扱いに関して、正しい知識をもって行動できる」とも関連させて展開する。

イ 本時は情報モラルの内容を題材化して授業を展開する。著作権や個人情報保護の必要性和情報モラルについて考えさせる。

(5) 人権教育の視点

ア 自信をもって自分の考えを発表できるような支持的風土づくりに努める。

イ 他者に関する個人情報を尊重し、不用意に情報提供しないという意識を高める。

ウ 他の人の意見も尊重しながら共に学習しようとする態度を育てる。

3 題材の観点別目標

生活や技術への関心・意欲・態度	インターネット上に情報公開する際の著作権や個人情報の保護に関わる問題点に関心をもつことができる。
生活を工夫し創造する能力	※新学習指導要領では項目がありません。
生活の技能	※新学習指導要領では項目がありません。
生活や技術についての知識・理解	情報通信ネットワークを利用する上での著作権や個人情報の保護について説明できる。

4 本時の学習 (1 / 1 時間)

(1) 目標

インターネット上に情報公開する際の問題点について考え、著作権や個人情報の保護の重要性とインターネット利用上のマナーについて理解する。

(2) 展開

過程	学習活動と主な発問	生徒の反応	指導上の留意点と評価	備考
導入 10分	①教科書の事例から情報伝達の問題点とその理由について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちの住所を載せるのは、どこがいけないのかな？ ・コピーした写真を使うのは、どうしてダメなのかな？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・事例と身近な生活とを結びつけて考えさせることで興味・関心を高める。 	教科書
展開 35分	<p>②なぜ、2つの問題が発生するのか考えてみる。</p> <p>情報公開する際のルールやマナーについて考えよう。</p> <p>③住所や電話等の個人情報を公開する際の危険性について話し合う。 ○誰に伝いたいのか。 ○誰に伝わるのか。 ○どんな問題が起きるのか。</p> <p>④他の人が撮影した写真や作成したイラストを許可なく使うことの問題点について話し合う。 ○インターネット上の情報は誰のものか。</p> <p>⑤インターネット利用のルールやマナーについて話し合う。 ○情報公開のルールは。 ○安全に利用するには。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・なんでこんな問題が起きたのだろう？ ・自分のことは載せてもいいのかな？ ・友だちは、了解をもらったら載せてもいいのかな？ ・他人の個人情報を勝手に使ったらいけないんだ。 ・みんなが見るのだから自由に使っていいのでは？ ・自由に使えないのがあるんだ。 ・勝手に使うと法律違反になるんだ。 ・いろいろな問題があるから大人の人に相談しながら使わなくてはいけないな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット上の情報は、世界中に向けて発信されることを押さえる。 ・個人情報の保護について理解させる。 〈評価①〉 ・著作権について理解させる。〈評価②〉 ・知的財産権について押さえる。 ・ルールやマナーについて理解させる。 〈評価③〉 ・セキュリティについても理解させる。 	教科書 学習シート
終末 5分	5 次時の予告を聞く。 ルールやマナーを守って新聞を作成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・早く新聞作りをしてみたいなあ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次時から新聞作りをすることを知らせ、記事への関心をもたせる。 	

5 モデルカリキュラムの位置づけ

情報モラル（中目標）	道徳、各教科・特別活動 他
g4-1：情報社会における自分の責任や義務について考え行動する。	道徳 「たまにはメール来なくてもいいかも？」 1-(1) 節度、健康や時間の大切さを自覚し、節度と節制に努め調和のある生活をする。 心の触れ合い「ごあいさつのすすめ」 2-(1) 礼儀
b4-1：個人の権利・人格権・肖像権などを尊重する。 b4-2：著作権などの知的財産権を尊重する。	道徳 規則の意義「二つの手紙」 4-(2) 社会の秩序と規律 技術科 著作権の保護と情報モラルについて考える（本時）
c4-2：情報の保護や取り扱いに関する基本的なルールや法律の内容を知る。 c4-3：契約の基本的な考え方を知りそれに伴う責任を理解する。	社会科 「社会の発展と新しい人権」 知る権利とプライバシーの権利との関連を考える。 家庭科 わたしたちの消費と環境「消費者としての自覚をもとう」 悪質な商法の種類やトラブルについて理解し、契約の意味を知る。
d4-2：トラブルに遭遇したとき主体的に解決を図る方法を知る。	学級活動 「ケータイの落とし穴 個人情報を守ろう(2)-ウ 社会の一員としての自覚と責任」 家庭科 わたしたちの消費と環境「消費者としての自覚をもとう」 トラブルへの対処法を考えることができる。
e4-1：情報の信頼性を吟味できる。(2年時)	技術科 情報とわたしたちの生活「インターネットで情報を収集しよう」(情報の信憑性) インターネットによる情報収集の方法について理解する。 「情報伝達の方法を調べてみよう」 いろいろな情報を伝達する手段の特徴や利点について調べ、比較する。
f4-1：健康の面に配慮した情報メディアとの関わり方を意識し行動できる。	国語科 「メディア社会を生きる」 メディア社会やメディアの働きに関心をもつ。
g4-1:情報セキュリティの基礎的な知識を身につける。	社会科 「情報社会と私たちの責任」 情報社会の一員として責任ある行動の必要性を理解する。
h4-1：基礎的なセキュリティ対策が立てられる。	道徳 規則の意義「二つの手紙」 4-(2) 社会の秩序と規律
i4-1：ネットワークの公共性を意識して行動する。	社会科 マルチメディアの活用「現在の情報通信ネットワーク」 インターネット等（マルチメディア）の利用分野を知る。 道徳 プラットホーム「よりよい情報社会のために」 4-(2) 社会の秩序と規律

